

おわん型の葦舟を制作

7/16 リバーパル
五ヶ瀬川 ワークショップ 延岡



イネ科の多年草で水辺に自生する「葦(あし)」を使って舟をつくるワークショップが7、8日、延岡市のリバーパル五ヶ瀬川であった。カムナ葦船プロジェクト代表の石川仁さんの指導を受けながら、小学生ら約30人が葦舟づくりに挑戦した。五ヶ瀬川流域ネットワークが主催。過去に3隻の葦舟を制作しているが今回初めてデザインを募集し、北浦小4年の松原慧君が考案した「あしど

んぶり舟」を制作することが決まった。

一寸法師が乗るおわんをイメージしたデザインは、葦舟制作第一人者の石川さんも初挑戦の舟。初日から設計図がない中、みんなで試行錯誤しながらの制作が続いた。

舟づくりには1〜3月に友内川河川敷で刈り取った高さ2倍ほどのアシを使用。アシの束をいくつもつなげて長い1本の束にすると、とろろを巻くように円形にしておわん型をつくり、最後に帆を取り付けて完成させた。

自分のデザインが採用された松原君は「アシだけなのに舟ができてすごい。自分が考えたものが形になってうれしい」と話した。

葦舟づくりに挑戦する小学生ら(8日、延岡市牧町のリバーパル五ヶ瀬川)